



国立大学法人 千葉大学  
National University Corporation  
Chiba University

ニュースリリース

平成 22 年 3 月 31 日  
千葉大学 両立支援企画室

**「千葉大学 AGSST “男女共同参画” に係る共同宣言」  
を制定しました。**

千葉大学では、自然科学系の研究科における男女共同参画推進を目的に、理学研究科、工学研究科、融合科学研究科、園芸学研究科の 4 研究科で構成される千葉大学自然科学系の大学院（Chiba University, Association of Graduate Schools of Science and Technology:千葉大学 AGSST）が共同で「千葉大学 AGSST “男女共同参画” に係る共同宣言」を制定しました。

千葉大学では、積極的に女性研究者支援を進めて参ります。

「千葉大学 AGSST “男女共同参画” に係る共同宣言」別添参照

詳しくは以下のホームページもご参照ください。

<http://www.womensupport.chiba-u.jp/info/news100330.html>

【本件に関するお問い合わせ】

千葉大学 両立支援企画室

担当 小玉

TEL&FAX 043-290-2020

E-mail [ryouritsu@office.chiba-u.jp](mailto:ryouritsu@office.chiba-u.jp)



## 千葉大学 AGSST “男女共同参画” に係る共同宣言

私たち、理学研究科、工学研究科、園芸学研究科、融合科学研究科の4研究科は連携し、千葉大学自然科学系大学院（Chiba University, Association of Graduate Schools of Science and Technology：千葉大学 AGSST）として、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会的貢献を使命としている。

この21世紀において、私たち自然科学学術領域の最重要課題は、人類が直面する地球環境・エネルギー資源等の問題の解決と人間と環境とが調和した持続可能な社会への転換である。この歴史的転換点において、国籍・人種・性別・年齢等を超えた、多様で優秀な人材の参画と活躍が必須である。日本における高等教育、学術・技術の発展は、長らく男性研究者が主たる牽引役を担ってきたが、前述の最重要課題の解決、および最先端研究・教育水準のさらなる向上に向けて、国際化と共に男女共同参画の推進が不可欠である。千葉大学においても優れた女性研究者が男性研究者とともに活躍できる環境の整備は、自然科学がより豊かな知の創造をもって人類社会に貢献するために必須であると同時に、次代を担う世代にとって、将来性や展望を与えるであろう。

本学ではこれまで、学術分野における男女共同参画の推進のために、各研究科による独自の取り組みを進めてきた。さらに平成19年度には、本学独自の「支援循環型体制による女性研究者支援モデル」が文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択され、女性研究者への両立支援、部局独自の意識改革、就労環境の整備等を意欲的に促進してきた。その結果、新規採用女性研究者比率は25%を超え、自然科学系の目標女性研究者比率は達成できた。しかしながら、自然科学系の女性研究者率は、千葉大学全体の女性研究者比率16.7%の半分以下の7.4%に留まっており、女性大学院生比率を考慮すると、今後さらなる女性研究者の増加が必要である。

私たちは、男女共同参画社会の実現のために千葉大学が負っている重大な責務を自覚し、“公正な評価に基づく女性研究者の積極的登用”等を含めた施策に英知を絞り、その実施に向けて真摯に努力する。

科学的かつ自由な発想に基づく研究は多様性を育み、その多様性は優れた財産として、世界中から能力のある将来有望な若手研究者を惹きつけるであろう。斬新な視点、多様な基盤を持つ才能ある人々が集い、それぞれの能力を存分に発揮できる環境においてのみ、知の共同体としての千葉大学 AGSST の使命が達成できると信じる。

平成22年3月25日

理学研究科長	辻 尚 史
工学研究科長	野 口 博
園芸学研究科長	菊 池 真 夫
融合科学研究科長	小 林 裕 幸